



夜な夜な短歌コミュ 5周年記念歌集「願」

沈丁花を憶えていてねいつの日か冬の終わりを知らせにきます

雪(永山雪)

春分の満月に願う春嵐今年ばかりはお手柔らかに

Rieko

はらりはらり川染める花の鏡は歩くふたりを寄りそいみせて

June

土手までに行き交う人の肩からは桜の精の気配がしてる

momonga(もも)

朽ち果てたような老樹に咲く花のつぼみをひとつわけてください

雪(永山雪)

在りたいと希う姿は遠くても踏み出す今日も花は見ている

hanak

四月から年長さんになる吾子の名前をゆっくり縫いつけてゆく

れいぼ

朝まだき春夏秋冬結い上げて我を貫く簪が欲し

neimu(寧夢)

新しく買う口紅は春の色 気後れ隠しつややかに塗る

Rieko

リボルバーよりも弾数多そうな幼馴染の一生に一度

こつそりとドボシュ・トルタを断^たっておりつつがなく日々すぐなまんだぶ

そりやまあさ雑誌の裏の広告を疑う程度にやすれてますけど

人生を願いましては短歌での総数のよう素数噛みしめ

七色一味

ふみ

てる

コットン

羊世を呼ぶ

フェーブ



フランスの

と、その中に1つだけ

届かずにわたしの後頭部に当たる誰かの願いを込めた賽銭

ちやありい

願いをここに書けと言われそれほどの願いじゃないと気づく初虹

ティ

いくつもの絵馬の願いに絵馬掛けは折れることなく野良猫がいる

ティ

へい彼女イカした目鼻持ってんジャンこの時期だけでも交換しない？

七色一味





祈ることしかできなかつた家中のカイロを被災地へ旅立たせて

れいぼ

母が住むグループホーム訪ねると「お願いね」ってどこまでも親

コットン

もう一度名を呼ばれたきひとのこと思い起こせし微睡む景色

てる

肩書きはない関係の人のこと思い浮かべて聴く春の歌

momonga(もも)

恋多き女だったと大往生孫に囲まれ歌と一緒に

いつの日かあなたと二人暮らす日が来ると思って今を生きてく

コウコウと有明月を追いかける二羽の白鳥呪いをといて

きょうの日の溶け落ちた海は聞き上手変わらずにいて私の故郷

レイ

Masa

雨宮詩音

雨宮詩音

永遠の愛はどこかにあるのだとあなたは言ったあのとき言った

maso

唇に 触れる指先 火をつける 身を焦がす 熱奪う理性を

ナディ

抱きしめる 腕の力に 身を委ね 時止まればと願う悲しみ

ナディ

手繰り寄せ願えど終ぞ叶わずに燃える思いよ永遠なれと

すなひまわり

一日の終わりに夫の手を探るこの世の平和はお布団の中

レイ

きみが願った人はきっとぼくではないんでしょうね。それでも好きです。

NONたん

夢に見る砂漠の風に運ばれて廃墟と共に埋もれて行きたい

neimu (寧夢)

叶うなら思いやりのある世の中に儂いけれどたしかかな願い

ハリー◎ひまわり

千年の後も桜が咲くように詠い続けよ三十一字

さんじゅういちじ

みちくさ



編集後記

「夜な夜な短歌」。通称「夜な短」。2014年4月に発足した夜な夜な短歌コミュが、5周年を迎えました。コミュの方に参加を募っての春号。お題は「願」で、一人二首まででした。平成が終わり、令和へと向かいます。希望が感じられる歌が多いなか、笑っちゃう歌もありましたね。詠み人の皆さん、ありがとうございました。いつも読んで下さる方々にも厚く御礼申し上げます。

そして間もなく、今回も参加してくれたちゃありい（小坂井大輔さん）とティさん（戸田響子さん）の歌集が新鋭短歌シリーズから発売されます。「平和園に帰ろうよ」と「煮汁」。編集人も、今か今かと手に取る日をわくわくしながら待っています。

企画・写真・編集 momonga（もも）

夜な夜な短歌コミュ 5周年記念歌集／2019年4月発行

○当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。使用する際は、事前に確認していただくようお願いします。歌集の紹介や読書メーターでのレビューは大歓迎です。

○『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？ [*夜な夜な短歌人による夜な夜な短歌コミュをみる](#)